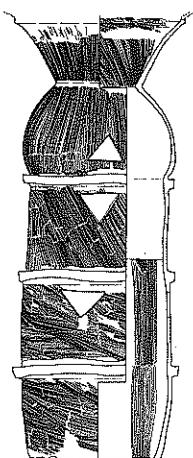


一般
二社団法人 日本考古学協会第87回総会

研究発表要旨



2021年5月22・23日

於 専修大学

一般
二社団法人 日本考古学協会

(9) 長野県佐久市香坂山遺跡の発掘調査

—日本列島における石刃石器群の起源をめぐる調査研究—

国武貞克・須藤隆司・堤 隆・國木田 大・佐藤宏之

1. 遺跡の立地と概要

香坂山遺跡（長野県佐久市）は、長野県と群馬県の県境付近に位置する黒色安山岩原産地の八風山（標高1,315m）の標高1,140mの尾根上に立地する。1996年に長野県教育委員会により発見され、1997年に長野県埋蔵文化財センターにより初めて発掘調査が実施され、2001年に発掘調査報告書が刊行された¹⁾。中型剥片石器を主体とする4ブロックが地表下5.5mから面的な発掘調査により検出され、そこから約40m斜面下方では幅2mの限定的なトレッセから、それとは様相の異なる長さ10cmを超える大型石刃が2点と、それが剥離された大型の石刃核が1点出土していた。

2. 調査の背景

日本列島の後期旧石器時代は、37.5 ka cal BPまでに列島の中期旧石器文化の系譜にある横打系の小型剥片による台形様石器群が成立することで開始したことが明らかにされている²⁾。その一方で、日本列島の後期旧石器文化を特徴づける石刃石器群は、八風山II遺跡³⁾にみられるように36.3 ka cal BPには既に列島に現れている。しかしながら日本旧石器研究では、この石刃石器群の起源について長く論争があり決着をみていない。列島自生説や収斂進化説、大陸伝播説など様々な見解が示されてきたが、とくに最近5年は、ユーラシア大陸の初期後期旧石器時代（IUP期）の石器群⁴⁾と、列島最古の石刃石器群である八風山II遺跡の石刃製刺突具が類似しているのではという議論が起きていたものの、肝心の石刃生産技術が一致しないとされるなど決着し難い状況にあった。

そこで発表者らは同じく八風山の山中にある香坂山遺跡に着目した。1997年長野県調査の大型石刃とアクリズム型石刃核は八風山II遺跡と技術的に異なることから、香坂山遺跡にはユーラシアIUP石器群と共に通する石刃石器群が埋没しているのではないかと予測された。これを検証するために2020年8月から9月に学術目的の発掘調査を実施したのである。

3. 発掘調査の成果概要

調査は科学研究費を使用し、7ヵ所の調査区計約135m²を3次に分けて発掘した。その結果、大型石刃と小石刃が出土したことは予測通りであったが、予期せぬことに定義的な斜軸尖頭器⁵⁾というべき尖頭形剥片も出土した。これにより、香坂山遺跡の石器組成は、大型石刃+小石刃+尖頭器を基本とするユーラシアIUP石器群の石器組成と一致する可能性が示唆されたのである。小石刃は、大型石刃を石核素材として生産されており、その結果として大型石刃素材の彫器状石核が残されていた。この彫器状石核こそが、ユーラシアIUP石器群の示準石器とされているのである。これら3セットの石器組成がユーラシアIUP石器群と一致するばかりか、その示準石器までもが出土したことになる。大型石刃は、中央アジアの中前期旧石器的な平面剥離型の石刃核から剥離されたことも確かめられた。放射性炭素年代測定の結果、36.8 ka cal BPとなり、現段階で列島最古の石刃石器群となることも判明した。

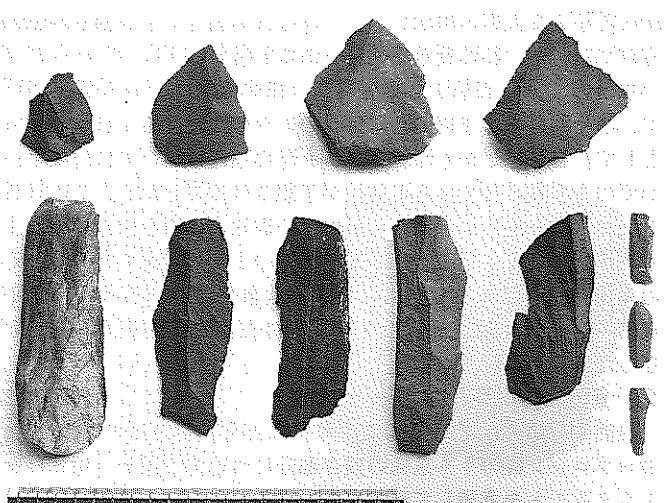
4. 意義と展望

香坂山遺跡の2020年学術調査によりユーラシア後期旧石器時

代の最古段階と酷似する石刃石器群が、日本列島に存在した可能性が浮上した。岩宿発見から70年以上の歴史をもつ日本旧石器研究において未知のインダストリーが発見されたこと自体稀有なことであるが、それが長らく懸案であった石刃石器群の列島最古の姿であったという点は特筆すべき成果といえるだろう。今後詳しい比較検討が必要となるが、細部に至る両者の類似性から、列島における石刃石器群の起源はユーラシアIUP石器群に求められ、その系譜を引く石器群が大陸から流入してきたという評価も可能であろう。具体的には現生人類のユーラシア東進の流れが朝鮮半島を通じて日本列島に、36.8 ka cal BPまでに到来したと想定される。そしてこれが既に列島内で成立していた台形様石器群と一体化することにより、35 ka cal BPまでに古本州島スケールで均質な後期旧石器文化を形成した可能性が考えられる。日本旧石器研究にとって新たな局面が到来したといえるだろう。

〈註〉

- 1) 谷 和隆編 2001『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書29－佐久市内－香坂山遺跡』日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター 72頁
- 2) 佐藤宏之 1992『日本旧石器文化の構造と進化』柏書房 362頁
- 3) 須藤隆司編 1999『佐久市埋蔵文化財調査報告書第75集 ガラス質黑色安山岩原産地遺跡群 八風山遺跡群 長野県佐久市大字香坂八風山遺跡群発掘調査報告書』交栄興産株式会社・佐久市教育委員会 619頁
- 4) 佐藤宏之 2017「アジアの後期旧石器時代開始期研究の現状と課題：スヤング遺跡第6地点第3・4文化層石器群を考える」『韓国旧石器学報』35号 韓国旧石器学会 5-20頁
- 5) 芹沢長介編 1966『星野遺跡－栃木県星野遺跡第1次発掘調査報告書－』ニュー・サイエンス社 79頁



2020年学術調査出土石器（上段が尖頭形剥片、下段は左から石斧、大型石刃3点、彫器状石核、小石刃。大木文彦撮影。）

一般
社団法人 日本考古学協会第87回総会 研究発表要旨

2021（令和3）年5月12日 発行

編集・発行 一般
社団法人 日本考古学協会

〒132-0035 東京都江戸川区平井5-15-5 平井駅前協同ビル4階

TEL 03-3618-6608 FAX 03-3618-6625

郵便振替 00170-8-143466

<http://archaeology.jp>